



ここまでの外気温・現地花芽の大きさや 3 月の高温を考慮すると、初期生育は昨年より進むと予想されます。生育が大きく進む年ほど休眠期防除や開花前管理が遅れる傾向です。本年は特に早めの薬剤散布・剪定・管理作業を徹底してください。

ふじ発芽予想（平岡若宮）：3 月 27 日頃

（参考）平年 4 月 4 日・H27 3 月 31 日

りんご発芽前の薬剤散布

- 石灰硫黄合剤とベフラン液剤の 2 体系を記載しています。下記の内容を読み、どちらかを選択してください。
- 休眠期の薬剤散布は、腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類の初期密度抑制に有効です。休眠期防除を徹底し、生育期の防除につなげてください。

石灰硫黄合剤体系

散布時期：発芽前（3 月中下旬）

散布薬剤 水 8 8 リットル
スプレーオイル 2 リットル *②
石灰硫黄合剤 1 0 リットル

対象病虫害：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類

10 アール当り散布量 300 リットル

【注意事項】

- ① 温暖・無風の日を選び、幹や枝を十分洗うように散布する。
- ② 調合にあたっては、スプレーオイルを先に水に溶かし、石灰硫黄合剤を後から加えてよく攪拌しながら散布する。
- ③ 石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールに極力かからないようにする。
- ④ 昨年、ハダニ類の発生が多かった園は散布量を多めに設定する。

散布日 月 日

散布量 リットル

ベフラン液剤体系

散布時期：発芽前～発芽後 7 日以内（3 月中下旬～4 月初旬）

散布薬剤 水 9 8 リットル
展着剤 1 0 ml
ベフラン液剤 25 1 0 0 ml *②
スプレーオイル 2 リットル

対象病虫害：腐らん病・ハダニ類・カイガラムシ類

10 アール当り散布量 300 リットル

【注意事項】

- ① 温暖・無風の日を選び、幹や枝を十分洗うように散布する。
- ② 調合にあたっては、ベフラン液剤を先に水に溶かし、スプレーオイルを後から加えて、よく攪拌しながら散布する。
- ③ 昨年、ハダニ類の発生が多かった園は散布量を多めに設定する。

散布日 月 日

散布量 リットル

裏面もお読みください。

3月の重点管理作業（腐らん病・ハダニ類対策、苗木の植え付け方法等）

1. 腐らん病対策

本年は早期発生傾向です。3月以降は更に罹病部がわかり易くなります。腐らん病斑を見つけ次第、早めに粗皮削り等の感染拡大に努めてください。病斑を放置すると、梅雨の期間に蔓延します。早期発見・早期治療を徹底してください。

2. 粗皮削り（ハダニ類・輪紋病対策）

リンゴハダニ、カイガラムシ類は粗皮下等に越冬しています。休眠期防除前に粗皮けずりを行い薬剤が直接かかるようにしてください。また、カイガラムシ類の寄生が多い園では、防除の前に金ブラシ等で削り落す作業を行ってください。輪紋病(いぼ皮病)の罹病樹(枝)も多々散見されます。「いぼ皮」を見つけ次第、必ず粗皮ケズリを行い、輪紋病の発生源撲滅に努めてください。

3. 苗木の定植方法

- ① 植え穴は苗木の根の2倍の大きさで、土とユーキリン(1kg)、もみがらくん炭(適量)、エアープイント(完熟堆肥)等を混ぜて埋め戻し、定植に備える。
* ユーキリン(20kg : 3,865円)、もみがらくん炭(300 : 496円)、エアープイント(18kg : 529円)は、営農センターにて取り扱っております。
* 化成肥料を施用する場合は、定植後とする。多量の施肥は根をいためる場合があるので注意する
- ② 特に土壌が乾燥しやすいので、植え穴に水をたっぷり入れて植え付ける。(3月下旬～4月初旬に定植する。)
- ③ 植え付け時は、根を放射状に広げ、各々の根に細土が密着するように丁寧に土をかける。太根の先端を剪定鋏で切っておくと、発根が良くなる。土をかけた後、苗木を軽く持ち上げるようにしながら足で軽く踏みつけて、たっぷり灌水を行なう。
- ④ 植え付けの深さは、接ぎ木部位が地面からわずかに出る程度とする。
- ⑤ 苗木は支柱を添えて固定し、揺れを防ぐ。
- ⑥ 苗木の剪定(切り戻し)は定植後に行い、地上部30～50cmの高さで充実した芽の上で切り戻す。

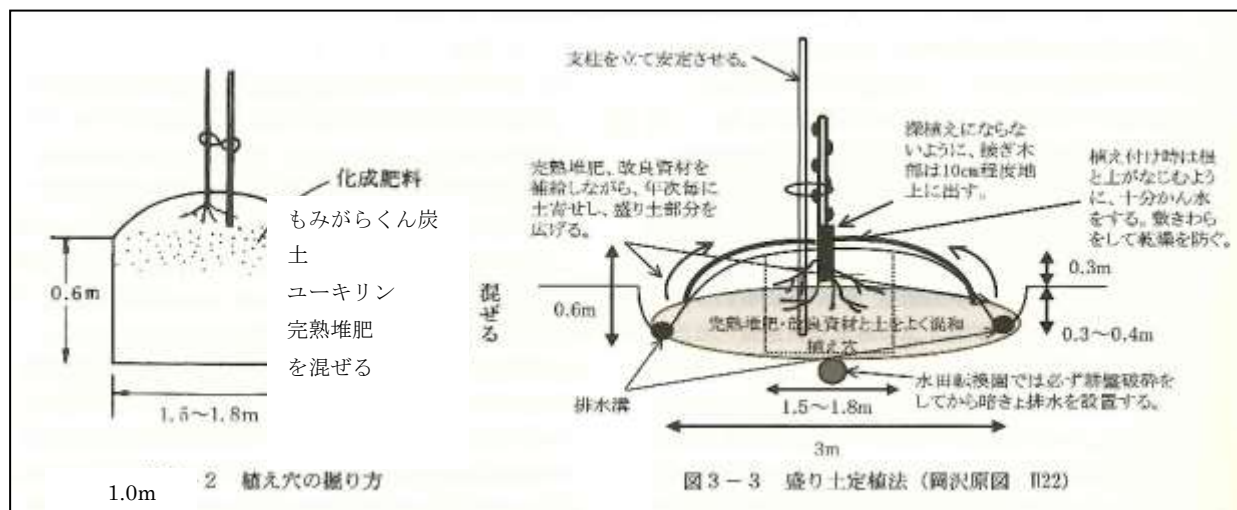


図1 基本の植え方

図2 排水性が悪い土壌の場合

4. 凍害対策

3月以降の寒のもどりによって、若木・わい化樹の樹体凍害発生が心配されます。発生防止のため、以下の点にご注意ください。

- ① 稲わら等の資材を樹幹に巻きつけている場合は、除去をやや遅らせる。

薬剤散布が樹幹にかかりにくい状況になるため、特に凍害がわい化樹や5年生未満の若木のみ除去を遅らせる。

- ② 排水性の悪い園地では、暗きょや明きょ等によって排水対策に努める。また、新たに苗木を定植する場合は浅植えに努める。(定植方法は上記参照)
- ③ 風当たりの強い園地では、防風ネット等で緩和に努める。